



1. 作業場の風景
2. 完成した木桶
3. 仕上げのカンナ
4. 使い込まれた鋸のこぎり
5. 作業台
6. 桶の側面の部材
7. 小峯さん
8. 独特の底辺の切り込み

せるのが技術ですよ」と説明します。

また、木桶の底辺に入れる切り込みには強いこだわりも。

「切り込みの形は職人十人十色で全く違います。製作者なら使われている木桶の切り込みを見ただけで自分のだとわかるはずですよ。私も自分の形を見いだすまで、随分と苦労しましたよ」と往時を振り返ります。

伝統を守った丹念な手仕事

今でも全国から風呂桶の注文が寄せられているそうで、「しっかりと作った風呂桶は30年以上使えます。出来が良すぎて買い替え注文が来なくなってしまふんです。でも、長く使ってもらうために丹精込めて作ってます」と洒脱しゃだつに語る小峯さんから伝わってくるのは職人の誇りです。

「木桶は、使い続けると自分の手に馴染んで愛着が湧きます。それを求めてはるばる遠方から来てくれるのだから、職人冥利に尽きますね」と話してくれました。